



阿見町若栗 「田舎のたまり場 ゆのはら」



湯原さんご夫婦

霞ヶ浦南岸からほど近く、のどかな丘陵地帯に位置するのが今回ご紹介する田舎のたまり場「ゆのはら」です。ご主人の湯原宏雄さんは、元々企業戦士として

全国各地を駆け巡ったサラリーマン。仕事一筋の現役時代を退いたあと、のんびりと余生を過ごしたいと思いつつも好奇心旺盛な湯原さんは、色々なことにトライ。自治体や地域のボランティアセミナーなどに参加するうちにサラリーマン時代は考えもしなかった切実な地域の課題に直面したのです。「このあたりはのどかな田園地帯とは言え、近年は人と人とのつながりが疎遠となり、世知辛い都会の一面も多くなってきた。そんな事情から地域の潤滑油的存在である『たまり場』の必要性を考えるようになった」のだそうです。

まずは自宅の一角の倉庫スペースを改築し、近隣の方々のコミュニケーションの場として解放することから始めました。そうこうするうち、退職後の趣味が高じて始めたそば打ちが、いつの間にかこの場所でも評判を呼び、そのそばも気軽に味わってもらいたいという思いからそばを振舞うこととしたのです。湯原さんご夫婦の気さくな人柄も相まって評判を呼び、たくさんの方が集まるようになりました。歓談しそして、そばを味わい舌鼓を打つ。当然頂いた側は何かしらのお礼がしたくなる。



天ぷらそば

それが逆に気を遣わせてしまうと感じた湯原さんは、「ならば」と低価格で気軽に来てもらえるお店として再出発しました。当然、利益目的ではありませんの

で毎日営業する訳ではなく完全予約制での週3日限定営業です。そんな手作り感覚いっぱいのたまり場「ゆのはら」は、今では口コミで評判を呼び、遠方から訪れる方も珍しくなくなったのだそうです。



本格的日本そば店の店構え



思いを語る湯原さん

現在ではそば店運営のかたわら、荒れ果てた公園の里親制度「百笑の会」を立ち上げ地域の美化に努めたり、手品や踊りで老人ホームを慰問する活動を始めたりと、多方面

での貢献活動も精力的に行っています。

何が湯原さんご夫婦のバイタリティの源となっているのか、お聞きしたところ「誰かの為、何かの為にやらなくては、という気持ちだと長続きしなかったでしょう。自分たちが楽しむことが大切なのです。趣味の旅行も、たまり場にお越し頂いた方からの四季折々の情報から楽しめた、なんてこともしょっちゅうですしね」と屈託なく笑う湯原さん。今後も、マイペースで楽しみながら、地域の潤滑油として活躍されていくことでしょう。



ご夫婦で調理場に立つ



風情あふれる案山子

